

ヤマト政権の新たな外交

物部守屋を滅ぼした蘇我馬子は、厩戸王とともに政務を執った。新政策の1つは外交で、隋の中国統一という情勢下、朝貢という従来の外交をやめ、隋に対して対等な立場を求めた。使者を派遣するのに先立ち、603年に冠位十二階、604年に憲法十七条が制定された。交渉にあたり、相応の秩序が必要と考えたからである。

○旧外交の解体

●蘇我馬子と厩戸王の協力（崇峻天皇～推古天皇の代）

587年、大臣⁽¹⁾ _____ と厩戸王が大連⁽²⁾ _____ を滅ぼした。

◇(2)の死後に大連は廃絶

(3) _____ が新たな大王に即位したが、やがて(1)と対立して暗殺された。

→次の大王⁽⁴⁾ _____ は、甥⁽⁵⁾ _____ (聖徳太子)を⁽⁶⁾ _____ に任命した。

⇒大臣(1)と摂政(5)が共同で政務を執った。



●国際情勢の変化—隋の中国統一

589年、⁽⁷⁾ _____ が中国を統一した。

⇒高句麗・百済・新羅は(7)に朝貢した(冊封体制に入った)。

◇冊封体制…No. 4の図2を参考

◇高句麗は無礼なことが多く、(7)は軍をしばしば派遣

5世紀の倭の五王以降、ヤマト政権の朝貢は途絶えていた。

→朝鮮半島の諸国に対して、ヤマト政権が優位に立つためには、

(7)と対等な関係を結ばなくてはならない。

→600年、ヤマト政権は(7)と交渉を試みたが失敗した。

⇒対等な関係を結ぶだけの、地固めをする必要がある。



図1 6～7世紀初頭の東アジア

●外交に向けた地固め

<役人の序列化>

603年、⁽⁸⁾ _____ 制定

- ①役人である豪族を、能力に応じて12段階で序列化
- ②色別の冠を授けて、序列の判別や厳粛な雰囲気演出
- ③冠位は個人単位の賜与で一代のみ (⇒ 姓は氏単位で世襲可)

意義：姓では限界のあった役人の序列化

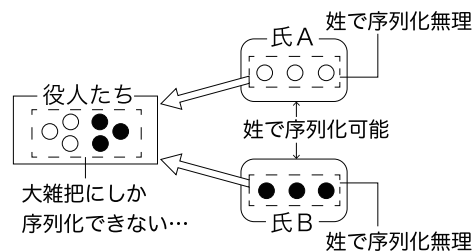


図2 冠位がない場合

<役人の道徳>

604年、⁽⁹⁾ _____ 制定

- ①第1条：和(豪族同士の融和)を心掛けること
- ②第2条：⁽¹⁰⁾ _____ (仏・法・僧)を敬うこと
- ③第3条：⁽¹¹⁾ _____ (大王の命令)に従うこと

意義：ヤマト政権の方針と役人の心得の明確化

○ 隋・唐との外交

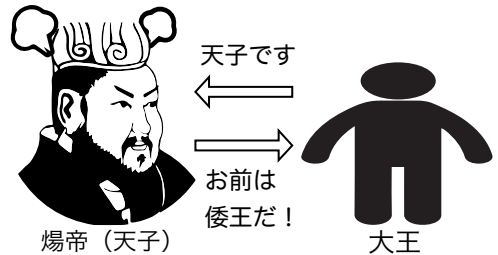
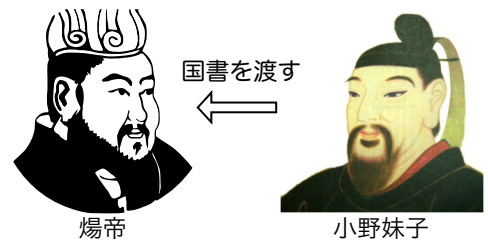
● 隋への派遣

607年、⁽¹²⁾ _____ が⁽¹³⁾ _____ として派遣され、
隋の皇帝⁽¹⁴⁾ _____ に国書を渡した。



『⁽¹⁵⁾ _____ 』

- ①大王「日出づる 処 の天子、書を日没する処の天子に致す」
…大王も「天子」という称号を名乗り、隋と対等な立場を主張
 - ②煬帝「蛮夷の書、無礼なる者有らば、復た以て聞する勿れ」
…倭王（中国からの大王の称号）も「天子」と名乗ったことに憤慨
 - ③煬帝は⁽¹⁶⁾ _____ らを倭国に派遣
…憤慨の一方で、高句麗との対立上倭国は無視できない存在
- ◇中国と対等な立場とは、冊封体制に入らないこと



● 隋への再派遣

608年、⁽¹⁷⁾ _____ が再度派遣され、隋に国書を届けた。



『日本書紀』(720年に編纂)

- ①大王の称号に「天皇」を使用（『日本書紀』の編者による文飾!?)
…中国から与えられた称号「倭王」を忌避!?
 - ②留学生⁽¹⁸⁾ _____、学問僧⁽¹⁹⁾ _____、⁽²⁰⁾ _____ も隋に派遣
- ◇天皇号…7世紀後半からの使用開始が有力説
◇(18) (19) …大化改新で国博士として活躍

● 隋の滅亡、唐の建国

隋が高句麗の征討に幾度も臨むと、国内で反乱が起きた。

⇒618年、隋が滅亡して、⁽²¹⁾ _____ が建国された。



630年、⁽²²⁾ _____ が _____ として派遣された。

⇒以降も、菅原道真が894年に廃止を建議するまでしばしば派遣された。

- ◇犬上御田歙…最後の遣隋使、最初の (22)
◇ヤマト政権（8世紀初頭以降、日本）は、唐の冊封体制には不参加

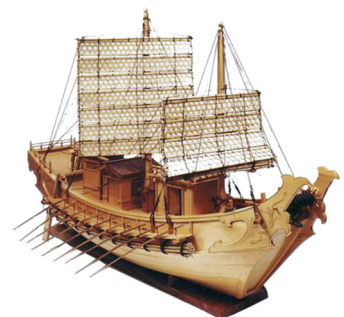


図3 遣唐使船（復元模型）

聖徳太子の虚像－厩戸王

聖徳太子は、厩戸王に () 付で併記される。これは「聖徳」の字が生前に使用されていないことや、太子（皇太子）どまりか不明であることを理由とする。太子については、①推古天皇の摂政②法隆寺建立③冠位十二階制定④憲法十七条制定⑤10人の話を聞き分けた等々でよく知られている。しかし、確実にと言えるのは①④のみ（④も存在自体が不明瞭）。そして、旧札に載った右の肖像画も、厩戸王とは無関係だと考えられている。この顔含め、厩戸王の虚像とはサヨウナラしたい。

